

孤立単発性脳結核腫の1例

なか むら つかさ はま さき おさむ い かわ ふさ お²⁾
 中 村 嗣¹⁾ 浜 崎 理²⁾ 井 川 房 夫²⁾
 ひ だか とし かず くろ かわ やす はる よね ざわ うしお²⁾
 日 高 敏 和²⁾ 黒 川 泰 玄²⁾ 米 澤 潮²⁾
 いた もち たく や いま だ とし ひろ まし の じゅん じ⁴⁾
 板 持 卓 弥³⁾ 今 田 敏 宏⁴⁾ 増 野 純 二⁴⁾
 きく ち きよし
 菊 池 清⁵⁾

キーワード：脳結核腫

要 旨

63歳女性。意識障害、右片麻痺を主訴に受診した。精査にて左側頭葉から頭頂葉に脳腫瘍性病変を認め、術前診断では膠芽細胞腫や転移が疑われ、開頭腫瘍摘出術を施行した。病理組織検査・組織の培養にて結核腫と診断された。分離された結核菌は薬剤耐性ではなかった。喀痰の抗酸菌培養陰性、QFT 陰性、画像所見などにより他の部位に活動性の結核を疑う所見は認めなかった。既往歴にうつ病、糖尿病を認めたが、HIV や HTLV-1 は認めなかった。術後の経過は良好で、抗結核薬による治療を術後6ヶ月間行った。脳結核腫は稀だが、孤立単発例では腫瘍などとの鑑別に注意が必要である。

はじめに

脳結核腫は結核発生の多い地域の小児や若年成人に発症するが、本邦含め先進国では稀な疾患である^{1,2)}。今回、脳腫瘍と鑑別が困難で術前には診断できなかった63歳の症例を経験したので報告する。

症 例

患者：63歳 女性

主訴：意識障害、右片麻痺

既往歴：うつ病・不安障害、糖尿病

家族歴：父（肺癌）

現病歴：2012年1月下旬の入院前日より右上下肢脱力出現し、徐々に歩行困難となった。食事水分摂取困難となりかかりつけの病院を受診し内服処方にて経過観察となった。翌日、右上下肢脱力改善せず、右上肢しびれも出現し、脳梗塞疑いにて当院へ搬送され入院となった。

入院時現症：身長：160.0 cm，体重：60.0 kg，

Tsukasa NAKAMURA et al.

1) 島根県立中央病院感染症科 2) 同 脳神経外科

3) 同 地域医療科 4) 同 総合診療科

5) 同 医療安全推進室

連絡先：〒693-8555 出雲市姫原4-1-1